



群馬県 高崎市等広域消防局
消防局長 眞下 和宏

北関東から北信越まで広範な消防防災を担う

高崎市等広域消防局は、高崎市と安中市で構成され、管内人口は約40万人、世帯数約16万2千世帯、面積673.61km²を1本部・4署・8分署の組織体制で、410人の職員が消防防災の任に当たっています。

高崎市「交流と創造 輝く高崎」

高崎市は、日本列島のほぼ中央部、群馬県の中西部に位置し、東京へ約100km、新幹線で約50分という位置にある中核市です。古くから交通の要衝として発展し、最近では平成23年3月の北関東自動車道の全線開通や平成26年度の北陸新幹線の金沢市までの延伸開通により、北関東・北信越の中心都市としての役割がますます高まっています。

安中市「豊かな自然と歴史に包まれて」

安中市は、妙義山をはじめとする豊かな自然環境を有するほか、磯部温泉、秋間梅林などの観光資源や碓氷関所跡、碓氷峠鉄道構造物などの史跡等にも恵まれており、観光・交流の拠点都市として発展を続けています。

消防技術の継承

当消防局では、団塊世代の大量退職による消防力の低下を防ぐため、若手職員を対象に警防訓練を行っています。これは、毎年採用3年目までの職員を対象に、年2回、火災救助訓練や検索救助訓練、連結送水管活用訓練、梯子車取扱い訓練など現場活動における基本の習得を目的として行っているものです。日常の訓練では行えない、



若手職員に技術を伝授

より実践的で専門性の高い訓練を、熟練した技術を有する職員主導のもと実施し、消防技術の継承を図っています。

子どもたちに大人気!

当消防局では、防災イベント用のミニ消防車を製作しました。

この車両は、管内の防災イベントや避難訓練などに向向し、住民に火災予防に対する関心をより深めていただくために、消防職員がアイデアを出し合い、2年の歳

月を費やして自主製作しました。電気モーターにより自走でき、サイレンや拡声器を搭載し、緊急出動が疑似体験できます。また、小型の消防ポンプを車両後部



手作りミニ消防車

に搭載しており、放水による消火活動も体験できます。現在では、週1回のペースで出場し、子どもたちに大人気の乗り物となっています。

東日本大震災を振り返って

当消防局では、東日本大震災における緊急消防援助隊として、37隊、138人を派遣しました。今回の派遣は未曾有の災害であり、出動し



緊援隊 福島県での活動の様子

た県隊の進出拠点や野営場所などが受援計画どおりに進まず、応援部隊自らが必要な情報を積極的に取りに行くことの重要性を痛感しました。今回の派遣を通じて得た課題や教訓を今後の活動に活かしていくとともに、被災地の一日も早い復興を願っています。